

健康長寿社会の実現のために

日本の優れた医療システムに 情報工学を用いて貢献する



患者自身が自分の検査記録などを デジタルで管理する。

digital Personal Health Record dPHR

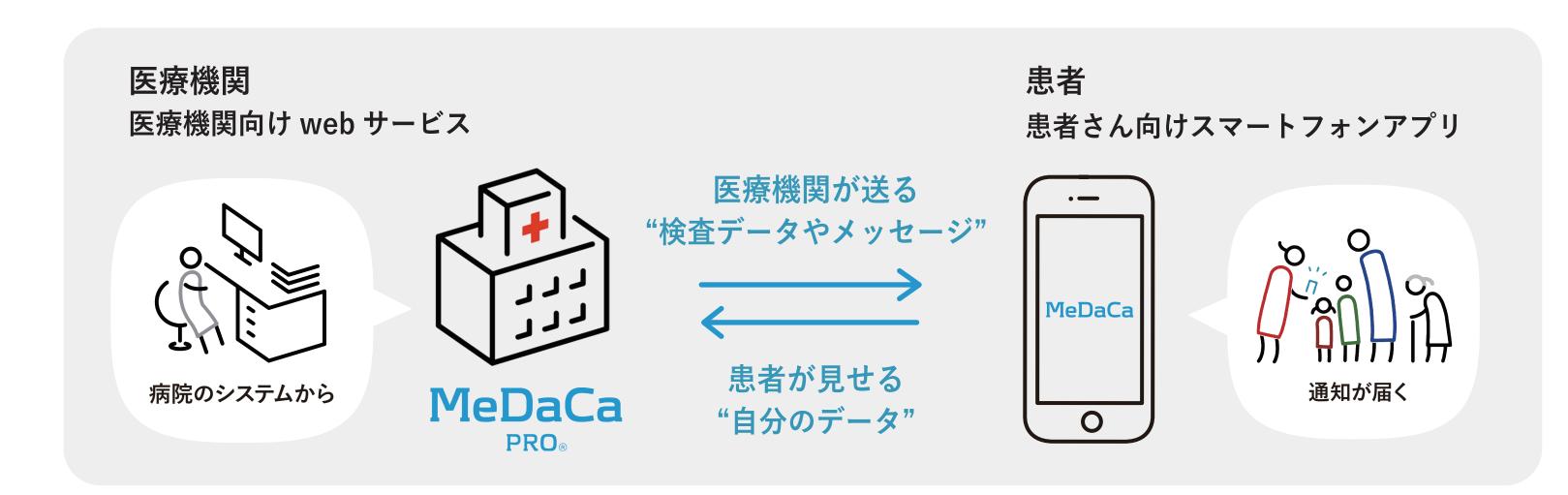
概要

医療機関、臨床検査センター、患者とをデジタルで接続する仕組みの提案

病院やクリニックを受診し、血液や尿検査、超音波、レントゲン検査などを受けた際に、患者は検査結果の受領を希望し、医師が 承認すれば紙で検査結果を受け取ることができる。

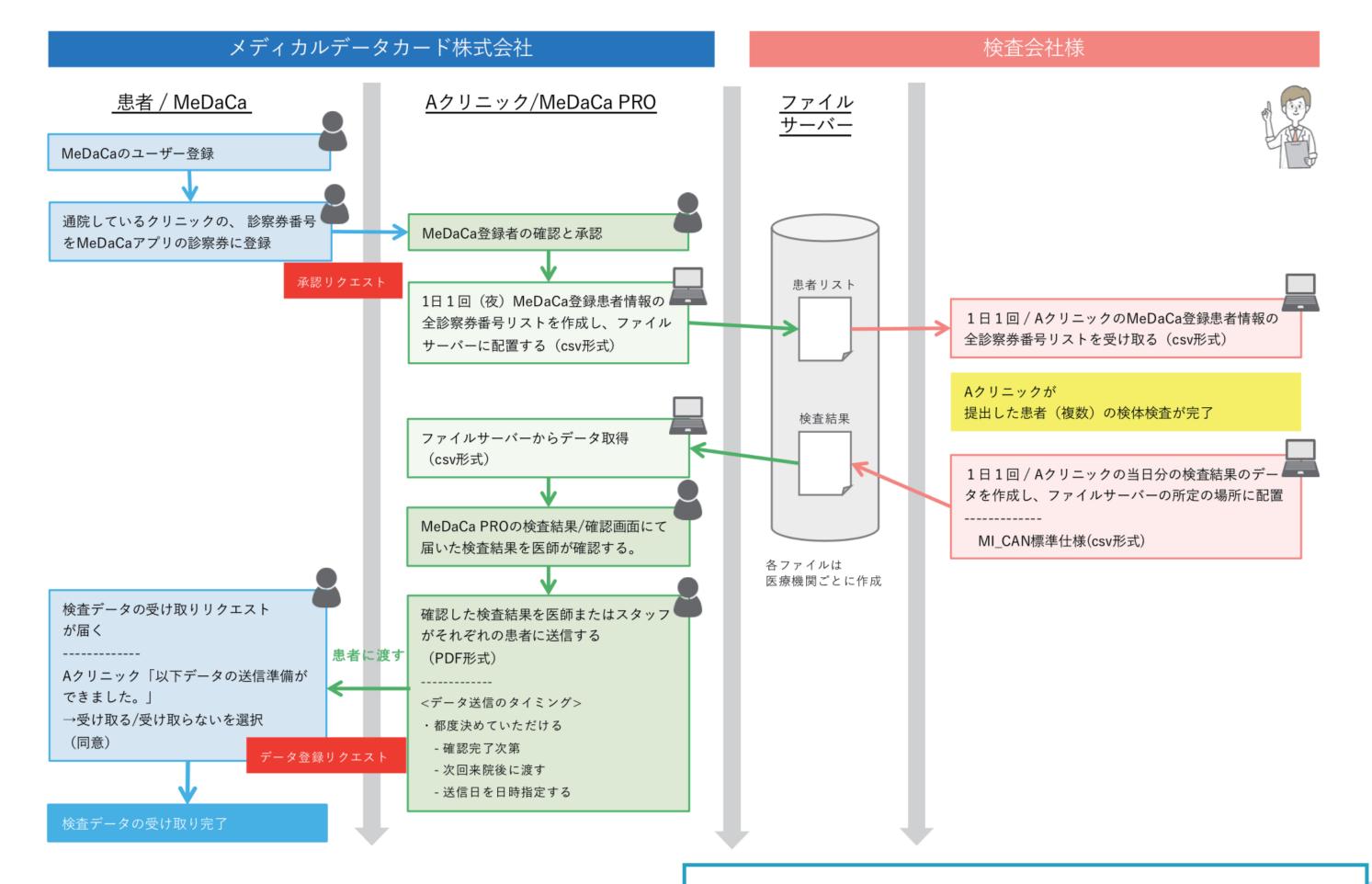
パーソナルヘルスレコード (PHR) や、医療機関と患者の情報連携の視点で考えると、情報の受渡がデジタルでできることが望ましい。 そこで本研究では、検査結果をアナログで渡している現状をデジタルに置き換えることを目標とした。

患者側はスマートフォンアプリ MeDaCa を利用し、対面で本人確認したのち、医療機関から患者にクラウド経由でセキュアに情報送信した。さらに、検査データを渡す部分について、臨床検査センターと連携し、出力された各個人の検査データを先のクラウドに接続し、医療機関で医師が確認の後、患者個人が自らの意思で情報を受け取るためのスマートフォンアプリ MeDaCa を実装した。MeDaCa を医療現場に展開し、医療検査結果を患者にデジタルで渡すことが可能になった。



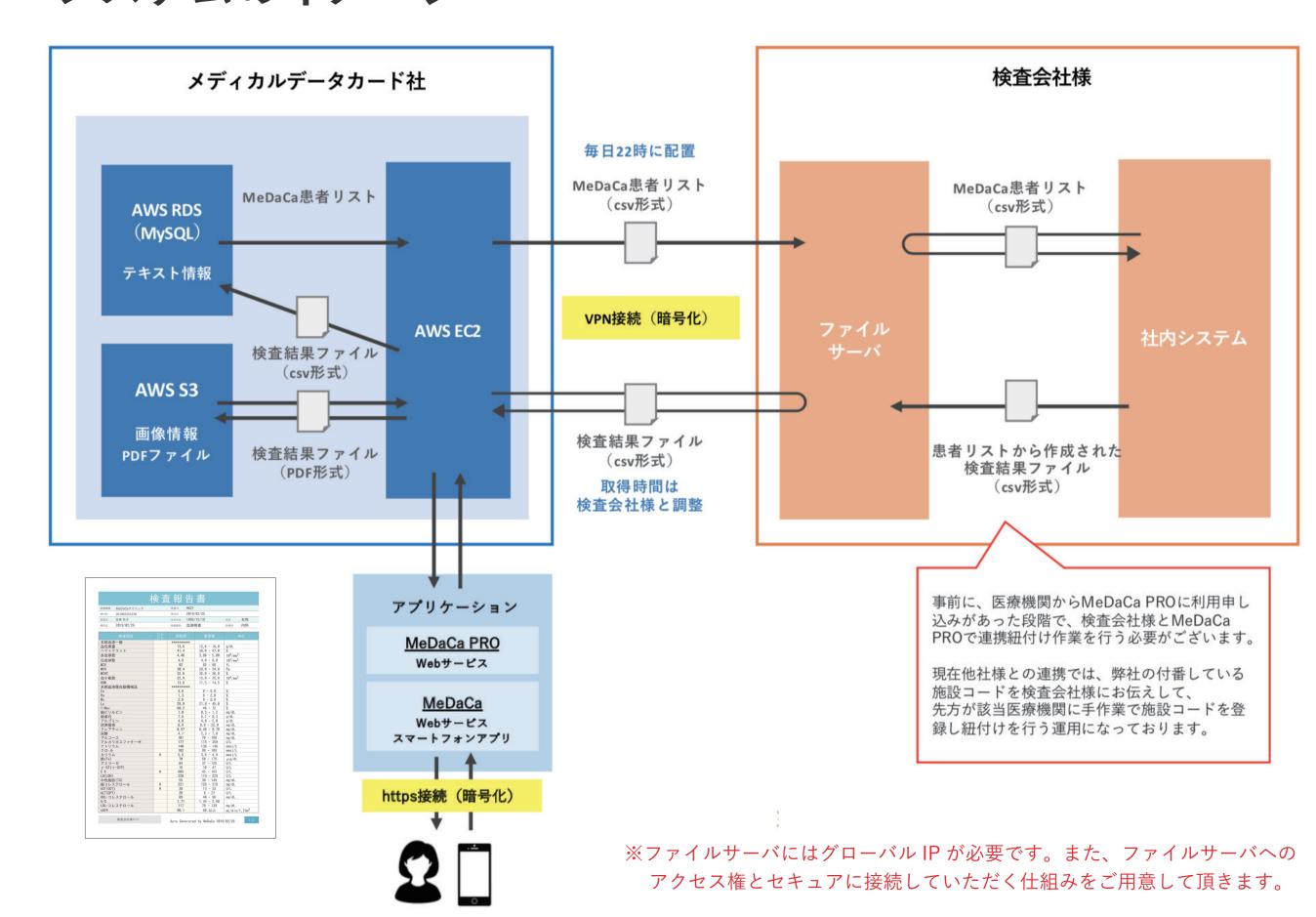
提案する仕組み/医療機関と臨床検査センターと患者との架け橋

運用イメージ



- Point
- ・医療機関と患者との接続は対面にて確認
- ・毎日患者リスト交換とデータ配信を実施
- ・患者に渡すタイミングはドクターの判断

システムのイメージ



Point ・サーバ間で連携(ファイルサーバー利用 / AWS S3 利用)

・検査結果は MI_CAN(みかん)標準フォーマット (csv 形式) を利用

・患者へは csv 形式を自動で PDF 形式に変換して表示

実証実験 / 名古屋医師協同組合名古屋臨床検査センターとの連携

名古屋臨床検査センターから MeDaCa PRO に送られた 検査結果のデジタルデータを

ドクターの確認のもと、患者に送信するサービスを 2018年8月より本格的に開始し、15以上のクリニックにて 連動。データを渡す件数も増加中。

- ・送信のタイミングは ドクターが自由に選択可。
- ・MeDaCa アプリに登録し、かつクリニックと連携している 患者のみを対象とする。

名古屋臨床検査センター 医療機関(病院・クリニック) 患者 じぶんの健康を収納する 検体検査一般 MeDaCa MeDaCa 1 1 検査結果 検査結果 デジタルデータ デジタルデータ ドクターが確認した後、 VPN 接続 https 接続 患者にデータを送信 検査結果が出る MeDaCa アプリに結果が届く (暗号化) (暗号化)

ユーザーフィードバック (医療機関様)

A クリニック様 / 脳神経外科

患者さんからの信頼性が高まり再診率の向上に繋がった

スマホでいち早く検査結果の詳細を確認してもらうことで、患者さんに安心してもらえます。 また、患者さんが来院した時の説明時間が短縮され、診察効率がよくなりました。 特に忙しい世代からの信頼性が高まり再診率の向上にも繋がっています。



B クリニック様 / 内科(糖尿病)

開業医の IoT(Internet of Things) と MeDaCa の存在価値

これからの医療は IoT の時代で開業医も IoT を上手に使いこなすことが求められます。 その入り口として MeDaCa システムは非常に理にかなっており存在価値があります。 患者さんへの食事や運動指導も非常にやりやすくなりました。

ユーザーフィードバック(患者様)

検査データや服薬指導書、食事の指導書など、来院する前に送ってもらっています。特に検査結果が早く わかるので、何かあればすぐに先生に相談できますし、何もない場合には心配する必要がないのが良いです。

医療機関で紙の検査結果を見て、説明をされても直ぐに質問が浮かびません。あらかじめスマホでデータを 見ていくと、疑問に思うところをお聞きすることが出来、直ぐ納得できとても良かったです。

紙での保存は限界があるし、知識のない私からしたらどれが必要なのか何をとっておくべきかなど分からないので、手間にならないアプリ管理はとても歓迎します!!

MeDaCa に診察券登録をしていると、診察券を忘れた場合でも医療機関で本人確認をしてくれるのが便利です。 MeDaCa を利用して、健康管理に気を遣うようになりました。